

発明の名称

堆肥製造方法および装置

～省エネと温室効果ガス排出抑制の両方を同時に満足する堆肥製造技術～

発明者

宮竹 史仁 (帯広畜産大学)

技術概要

開発した堆肥製造方法・装置は、堆肥材料に通気するものであり、堆肥材料の温度に応じて決定した通気量で行います。このとき、堆肥材料の温度は、連続的または断続的に測定して得られた測定温度に基づいて決定します。堆肥材料に通気をして堆肥化を進行させ、繰り返し（堆肥材料の混合等）を施しても高温まで温度が上昇しない状態になったら、堆肥化を終了させます。このように製造された堆肥は、有機質肥料、土壤改良材、水分調整材、家畜敷料、脱臭材、バイオ燃料等に利用できます。

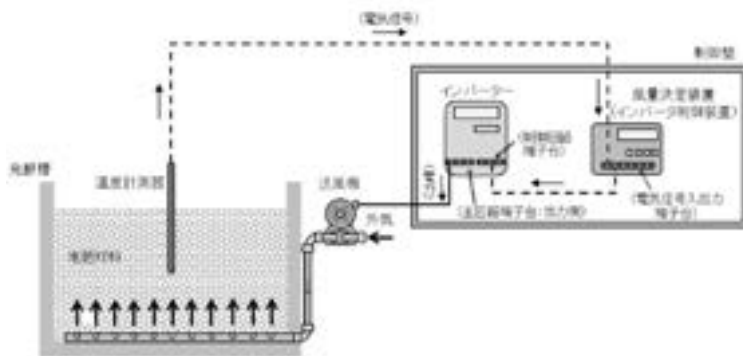
発明の目的

送風機に掛かる電力コストを低減させることができ、かつCH₄およびN₂Oの排出量も低減できる新たな堆肥製造技術を提供することです。

效果

堆肥材料への送風量を、堆肥材料の発酵状況に応じた適切な送風量に制御し、それによって、無駄な通気を抑えて電力コストを低減し、併せて、堆肥の発酵状況に応じて適量の通気量を送ることで温室効果ガスの排出抑制効果も得られます。

面図



詳細はこちら

[工業所有権情報・研修館のサイトに移動します](#)

出願・登録

出願日	設定登録日	存続期間満了日
2011/04/26	2014/06/27	2031/04/26